

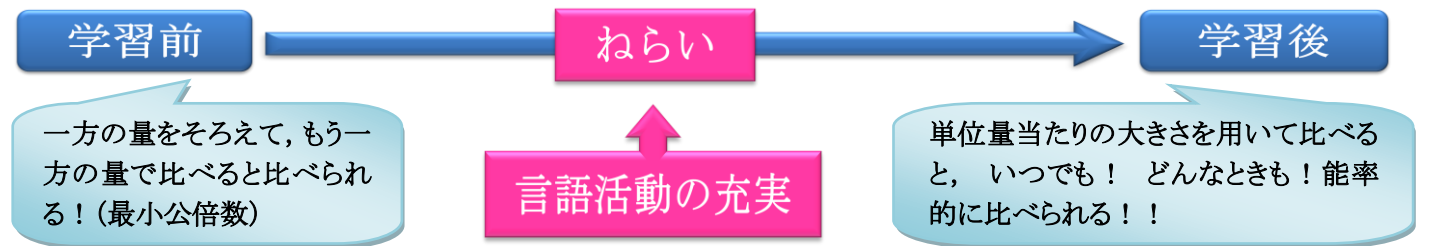
1 「といてみたい」「考えてみたい」～意欲を高める学習課題の提示

〈テーマ〉実際に混み具合を体験し、意欲を引き出した取組（東松島市立大塩小学校）

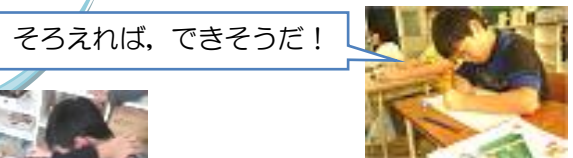
【ねらいと特色】 5年「単位量あたりの大きさ」

混み具合は、児童にとってなかなか理解しづらいと言われている。そこで本事例では、面積の違う畳の上に座る活動を児童が実際に行うことを通して“混み具合”とは何かを実感として捉えさせ、課題解決の見通しにつなげるとともに、解決の必要感をもつことができるよう問題提示を工夫した。そして、言語活動の充実を通して、異種の二つの量の割合として捉えられる数量について、その比べ方や表し方を理解できるようにし、「は・か・せ・どん」（は：早い[能率性]、か：簡単[簡潔性]、せ：[正確性]、どん：どんなときも[一般性]）の視点からの考察を通して、単位量当たりで比較することの数理的な処理のよさに気付かせた。

【実践の概要】



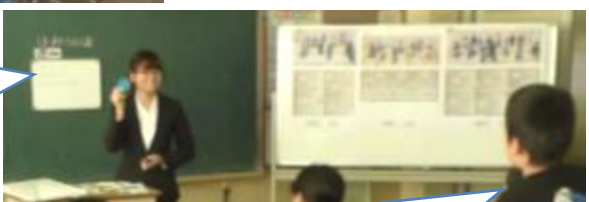
- 問題場面の体験と提示方法の工夫
 - 学習課題の明確化
 - 主体性・意欲の向上
 - ※必要性・必然性があり、学習したことよさを感得できる
 - ※生活経験に即し、身近に存在するなど現実性がある
 - 自力解決の見通し
 - ※量のイメージ化による結果の見通し



数が増えると公倍数の考え方は「大変！」

○ ホワイトボードで発表 → 多様な考えの類型化

- 「は・か・せ・どん」の視点をういた練り合いの充実！
 - 正しさの確認と友達よりよい考えの学びを！
 - よりよい方法、より一般的な方法の発見！



- 数理的な処理のよさへの気付き！
 - 単位量あたりの考え方って！
 - 早くて！簡単！
 - 正確！どんなときも！
 - 算数って便利！おもしろい！！

- C₁ 「畳1枚当たり」の考え方は分かりやすい。
- C₂ 「一人当たり」の考え方は、小さい数の方が混んでいるから、「畳1枚当たり」より間違えやすい。
- C₃ 「枚数や人数を公倍数にそろえて比べる」考え方は、数字が大きくなり計算するのが難しく間違えやすかった。
- C₄ 「公倍数」の考え方は、早く、簡単にはできないし、数字が大きくなると難しくなるからどんなときも使うことは難しい。
- C₅ 「畳1枚当たり」（「単位量当たり」）の考え方は、「は・か・せ・どん」が、当てはまる。

自力解決だけで、思考を停止させずに！「は・か・せ・どん」で繰り返し思考力を鍛えて！